

薬剤師が見たデパス「気軽な処方」が招いた事態

過去には90日分540錠を1度に処方することも

メディカルジャーナリズム勉強会

2019年12月06日



医師や薬剤師の適切な管理のもと処方されているはずの医薬品で、なぜ依存が起きてしまうのだろうか
(撮影：村上 和巳)

メディア関係者と医療者の有志で構成するメディカルジャーナリズム勉強会がスローニュース社の支援のもとに立ち上げた「調査報道チーム」が、全6回にわたる連載で追っている「合法薬物依存」。第3回は、デパス（エチゾラム）を処方する医療者側の実状に迫る。

[第1回：合法的な薬物依存「デパス」の何とも複雑な事情（2019年11月29日配信）](#)

[第2回：20年間「デパス」を飲み続ける彼女の切実な事情（2019年12月3日配信）](#)

※本来複数の製薬企業から同一成分の薬が発売されている際の表記では、成分名のエチゾラムを使うのが一般的である。しかし、服用患者も含め世間一般では簡単に覚えやすい「デパス」でその名が広く知られていることが多い。このため以後はエチゾラムではなく「デパス（エチゾラム）」と表記することをあらかじめお断りしておく。

薬剤師が語る「デパス」処方の実態

前回は、デパス（エチゾラム）の乱用経験がある患者を取材し、依存に至った経緯を聞いた。しかし、そもそもなぜ、医師や薬剤師の適切な管理のもと処方されているはずの医薬品で、依存が起きてしまうのだろうか。

この点について、医療者はどのように考えているのか？

まず話を聞いたのはさまざまな診療科の処方薬を取り扱う薬剤師だ。

「かつては一般内科では患者が『眠れない』『ドキドキする』『不安がある』と訴えると、すぐに処方されるのがデパスでした。中には『飛行機に乗るとドキドキするので』との訴えで処方されていた人を経験したこともあります」

台東区蔵前で「みどり薬局」を経営し、東京薬科大学客員教授でもある薬剤師の坂口真弓氏はそう語る。

先述のように、デパス（エチゾラム）は「不安・緊張・抑うつ」などの症状から、一般内科や整形外科で取り扱われることも多い「頸椎症・腰痛症」まで幅広い適応が保険診療で認められている。

かつては一般内科を訪問する不眠症患者にはデパス（エチゾラム）のほかにも、ほぼ同時期に日本で発売された超短時間作用型のハルシオン、またデパス（エチゾラム）と同じく短時間作用型の睡眠改善薬レンドルミン、第1回記事の全国調査にも登場したサイレースなども頻繁に処方されていたという。

しかし、ハルシオンは世界各国で乱用が問題になり、先進国の一部で事実上の承認取り消しや処方にあたっての制限などが相次



この連載の一覧は[こちら](#)

ぎ、この影響で日本でも処方量は急速に減少。サイレースやレンドルミンはその後に登場した新薬などにとって代わり、なかなか向精神薬指定を受けなかったデパス（エチゾラム）の幅広い処方が最後まで取り残されたと坂口氏は説明する。

また、みどり薬局に勤務し、最近まで大学病院の薬剤部に勤務していた田中みづき氏はこう語る。

「病院によって実態は違うと思いますが、私が勤務していた大学病院では高齢者によく処方されていましたね。整形外科でも高齢者に処方されていた印象があります」

しかし、向精神薬指定を受けたことで現在はデパス（エチゾラム）も処方量は急激に減少し始めているという。第1回記事で示したデパス（エチゾラム）の年齢別処方動向を見た坂口氏はこう分析する。

「たぶん向精神薬指定される以前から服用していた人が高齢となり、そのままやめられずに処方されていると考えるのが自然です。そしてその中には本来改善すべき症状が消失した後もデパスがやめられない常用量依存の人が含まれていると思われます。実際、在宅医療を受けている患者さんのところに服薬指導に行くことがあるのですが、同行した精神科医師から『長期間服用している高齢者でのデパス離脱が極めて難しい』と聞かされたことがあるほどです」

また、過去に病院薬剤部で勤務し、現在は茨城県古河市で薬局「なくすりーな」を営む薬剤師の吉田聡氏は「私が薬剤師になった約20年前は、成人で不安を感じる、急な動悸がする、眠れないなどの訴えがあれば、年齢・性別にかかわらずデパスが第1選択薬になるという『何でもデパス』と言われた時代でした。とくに一般内科での処方頻度が多く、しかも1回当たりの処方期間も長期でした」と語る。

ちなみに薬の処方日数については、医療機関や医師が医療保険での診療を行ううえで守るべき基本的な規則を定めた厚生労働省令「保険医療機関及び保険医療養担当規則」（通称・療養担当規則）によって、内服薬（飲み薬）と外用薬（塗り薬）は1回当たり14日分、30日分、90日分を限度とすることが定められている。

14日分は主に発売後1年以内の新薬、30日分は麻薬・向精神薬取締法の指定薬物などが該当する。これ以外の薬は医師の判断により最大90日分まで処方が可能になるが、患者の病状変化や薬の副作用出現に気づくことが遅れる危険もあり、実際の診療現場では30日分や60日分で処方されることが多い。



「みどり薬局」を営み、東京薬科大学客員教授でもある薬剤師・坂口眞弓氏（撮影：村上和巳）



「なくすりーな」を営む薬剤師・吉田聡氏（撮影：村上和巳）

1回で90日分処方も珍しくなかった

しかし、吉田氏が薬剤師になった頃はデパス（エチゾラム）で1回に90日分を処方されることは珍しくなかったという。

「過去には90日分として1日3回、1回当たり1mgのデパス服用指示に対して0.5mg錠で出したために、1回に540錠ものデパスを患者さんに渡したことを今でも覚えています」

2016年の向精神薬指定の結果、吉田氏もデパス（エチゾラム）の処方は減っていると感じているが、それでもなお時折デパス（エチゾラム）の処方に接して懸念を抱くケースがあるという。

「実は片頭痛の患者さんに対して一部の脳神経外科医が併用薬の1つとしてデパスを使うことがあります。この処方の患者さんは、薬が切れると、まるで人が変わったようになるのです。過去に勤務していた病院で片頭痛によりデパスの処方を受けていた患者さんが年末年始の休診期間に処方薬が尽きてしまったので、処方してほしいと来院したことがありました。

ところが、あいにく主治医は不在。それを知った患者さんが激高して『この薬がもらえるまでここを絶対動かない』と言い張って玄関に居座ってしまい病院側が対応に苦慮したことがあります。ここまでひどくなくともデパスが切れたことで、ある種の人格が変わるような片頭痛の患者さんの経験にはほかにもあるのです」

この話、一見すると「薬で症状が治まっている患者の薬が切れて症状が出始めたのだから当然のこと」と思うかもしれない。しかし、吉田氏はここに落とし穴があることを指摘する。頭痛で悩む患者では薬が切れたことで人が変わったように乱暴な行動に至るのは「薬物乱用頭痛」の可能性が高いからだという。

薬物乱用頭痛とは、簡単に言うと頭痛を改善するために服用する薬の回数や量、期間が徐々に増えていき、逆に脳が痛みにも敏感になって頭痛の頻度が増え、薬の効果も悪くなる悪循環に陥ったもの。これはドラッグストアなどで販売されている一般用医薬品の頭痛薬などでも起こる現象で、薬物依存の一種として一部で社会問題化もしている。

このような危険もある中で、依存性があるデパス（エチゾラム）が含まれる処方片頭痛で使うことに疑問を感じざるをえないという。さらに吉田氏は「そもそも薬理的に見ても片頭痛にデパスを使う意味がわからない」と語る。

「不安や不眠でデパスを服用している患者さんは、デパスの依存性についても一定の認識があることも少なくありません。しかし、片頭痛で処方された複数の薬剤の中にデパスが交じっているような患者さんでは、そうした依存性の認識はまったくないことが多く、知らぬ間に依存になってしまう危険性があるのです」

吉田氏は現在の薬局を運営するようになってからも時折、この片頭痛でデパス（エチゾラム）の処方を受ける患者を見かけることがある。中には薬物乱用頭痛に至っている可能性が高い患者もおり、その可能性を伝え専門の頭痛外来の存在を伝えるなど対処しているという。

利点の多いデパス「気軽」な処方への疑い

薬剤師への取材からは、デパス（エチゾラム）の依存・乱用が起きた背景として、2016年に向精神薬の指定を受けるまで、「広い適応」「長く処方できる」などの利点があり、それゆえにいわば「気軽」な処方、時には薬理的に考えて意味が不明な処方が行われたのではないかと疑いが見えてきた。

そして向精神薬の指定後、そうした「気軽」な処方は減りつつあるものの、すでに長年デパス（エチゾラム）を服用し続けてきた高齢者の常用量依存が問題化しているとの指摘もあった。

今回は、デパス（エチゾラム）の問題を医師がどのように見ているのかを追う。

（取材・執筆：村上 和巳／ジャーナリスト）

Support by SlowNews

（第4回に続く）

東洋経済オンライン



関連サービス

- The ORIENTAL ECONOMIST
- 東洋経済education × ICT
- 会社四季報オンライン
- シキホー！Mine
- 東洋経済STORE
- 東洋経済デジタルコンテンツライブラリー
- 株式ウイークリー

法人向け関連サイト

- 法人向けデータサービス
- 東洋経済広告
- 東洋経済プロモーション
- 東洋経済セミナー
- 東洋経済カスタム出版
- 教科書の森

東洋経済新報社について

運営会社 | 採用情報 | 公式アカウント一覧

東洋経済オンラインについて

サービス紹介 | 広告掲載 | WEBサービスでの情報収集 | プライバシーポリシー | 知的財産 | 特定商取引法に基づく表示 | 東洋経済ID利用規約 | 利用規約 | お問い合わせ

